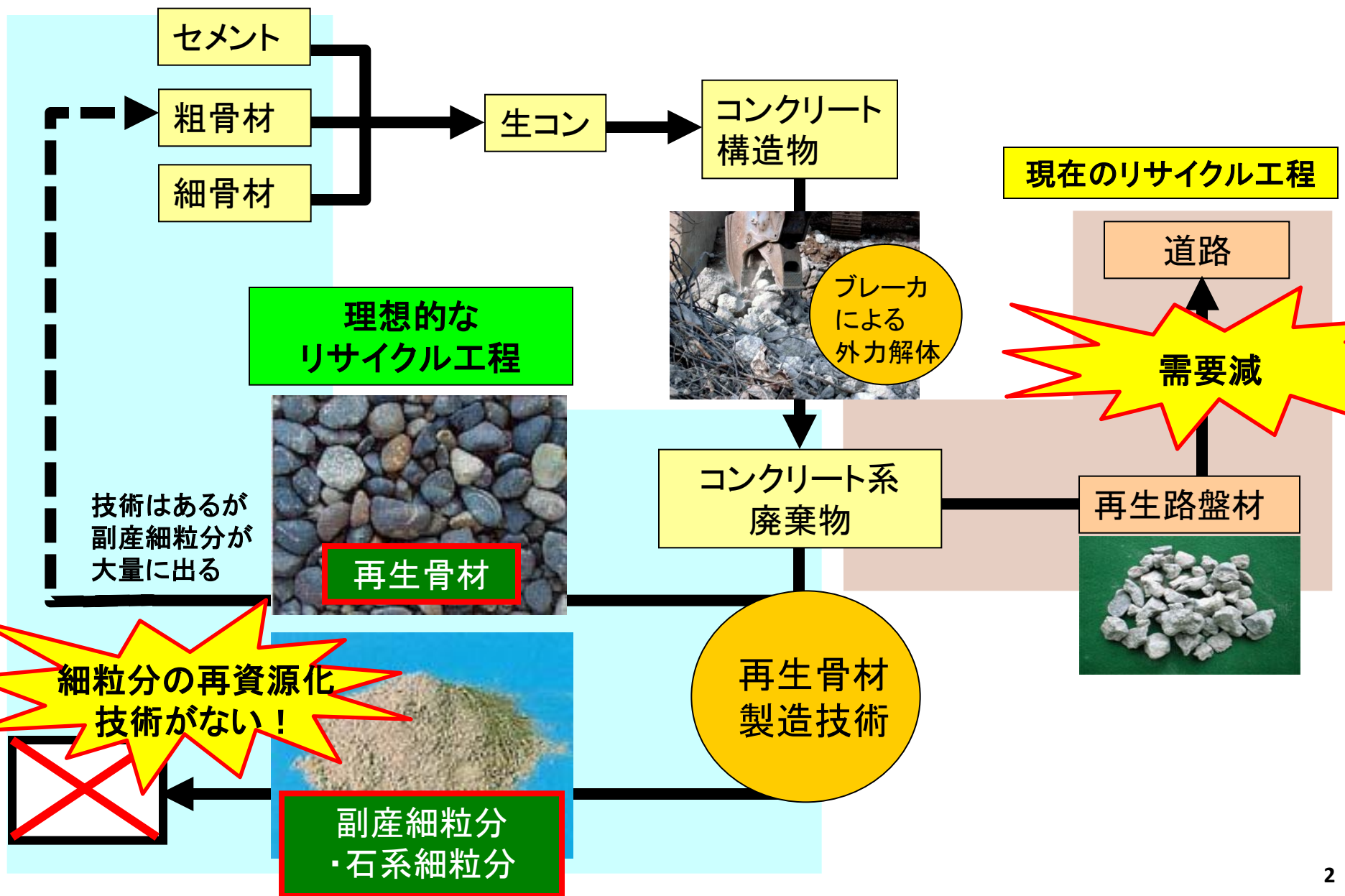


平成23年度住宅・建築関連先導技術開発助成事業

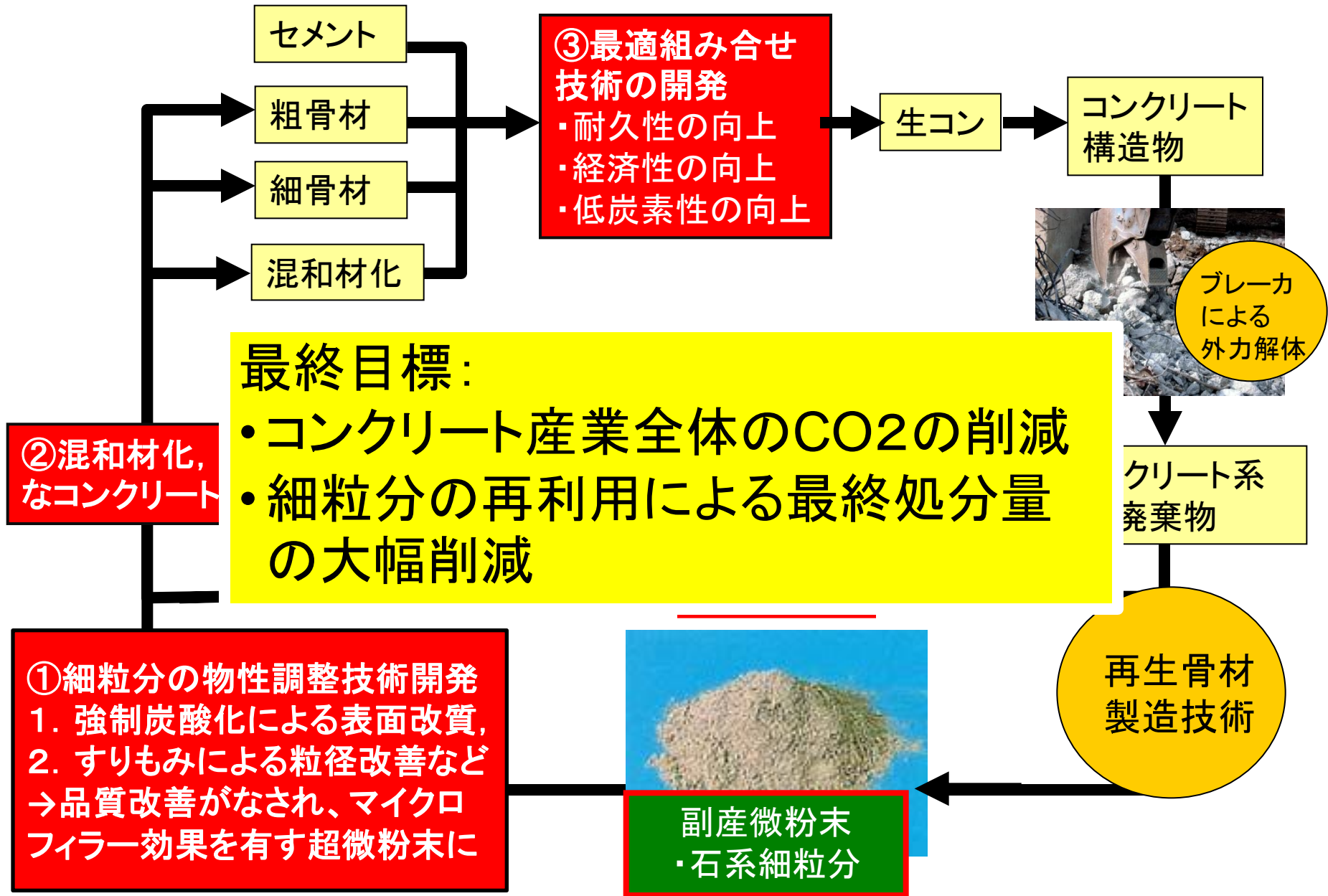
廃コンクリート・石系廃棄物の 低炭素・完全循環利用技術の開発

- ・堺 孝司（香川大学 工学部安全システム建設工学科専攻 教授）
- ・有限会社 三豊産業
- ・日工 株式会社
- ・野口 貴文（東京大学大学院 工学系研究科建築学専攻 准教授）
- ・北垣 亮馬（東京大学大学院 工学系研究科建築学専攻 講師）

背景：廃コンクリート塊の再資源化のボトルネック： 細粒分の再資源化技術の欠如



本研究の目的とスキーム



技術開発の内容

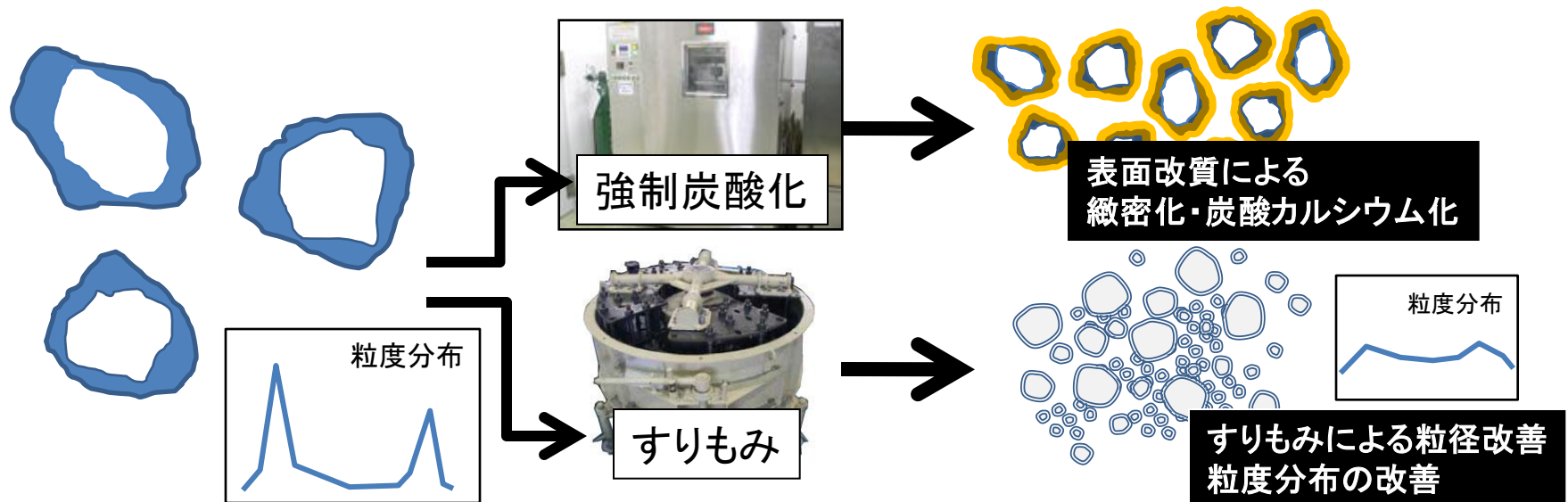
①1・2年目：廃コンクリート細粒・廃石系細粒分の物性調整技術の開発（野口，北垣）

研究内容：

- 混和材化，再資源化に必要な基礎物性，メカニズムの検証
- 強制炭酸化による表面改質，すりもみによる粒径改善など，**極力軽微で低炭素な加工技術の確立**
- それによる細粒分の**諸物性の变化メカニズムの把握**。

達成目標：

- 細粒分の吸水率3%以下，比表面積10万 cm^2/g に調整し，**シリカフェームなど一般的な混和材と同等の性能を実現**
→ **高い利用価値，高い性能をもった細粒分へ変性させる調整技術の確立**。



技術開発の内容

②1・2年目：廃コンクリート・細粒廃石系細粒分の混和材化とコンクリートの性能評価 (◎堺, 三豊, 日工)

研究内容:

- ①の技術を実工場にて適用. 調整済細粒分を投入したコンクリートの性能評価実施
- 調整済細粒分の(1)単位セメント量節約性能と, (2)耐久性向上性能の評価

達成目標:

- 既存の混和材と同等の(1)耐久性の確保, (2)単位セメント量の節約性を実現する.

③3年目：コンクリートセクターの包括的資源循環シナリオに基づく 再生骨材・細粒分の組合せ利用技術の開発(◎堺, 三豊, 日工)

研究内容:

- ①, ②で検証された調整済細粒分を用いて再生コンクリートを作成し,
コンクリート産業界へ導入することで得られる廃棄物削減量, CO2排出削減量を評価する.

達成目標:

- (1)加熱型高品質再生骨材と単位セメント量節約型混和材による資源循環シナリオ,
- (2)機械式・中品質再生骨材と耐久性向上型混和材による資源循環シナリオを想定し,
→我が国のコンクリート産業からの最終処分量を半減, CO2排出量を30%削減を実現する.

本研究の独創性・先導性・市場化見通し

従来の廃コンクリート塊の再資源化技術の問題

回収骨材の品質を過度に重視した技術

- 廃コンクリート中から骨材を品質良く取り出したい
- 余分にでてきた細粒分は廃棄でもよい



細粒分の利用性が取り残された結果

回収骨材よりも多くの未利用細粒分が発生し、使いにくい技術に



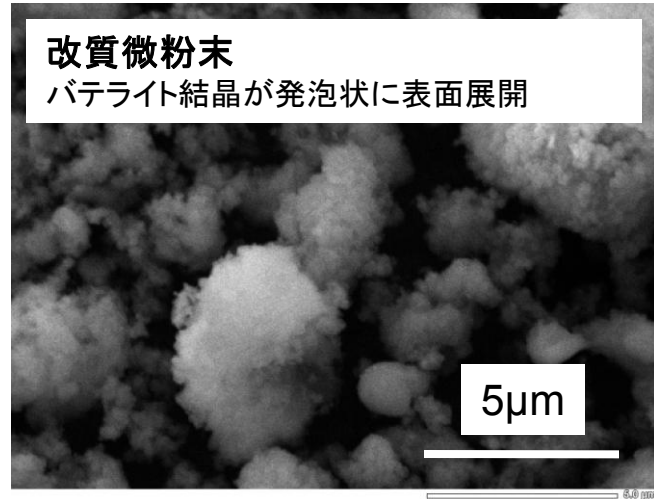
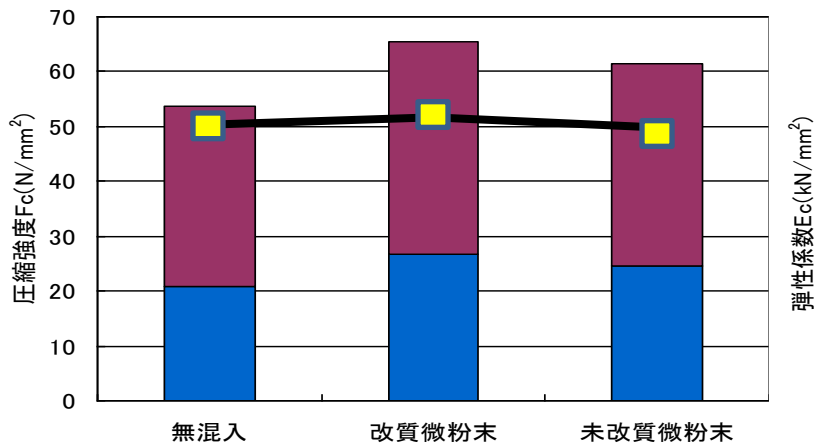
本研究の独創性・先導性

未利用でボトルネックとなっていた細粒分の積極的な多機能化による
低炭素化, 廃棄物削減, 廃コンクリートの完全リサイクルの実現

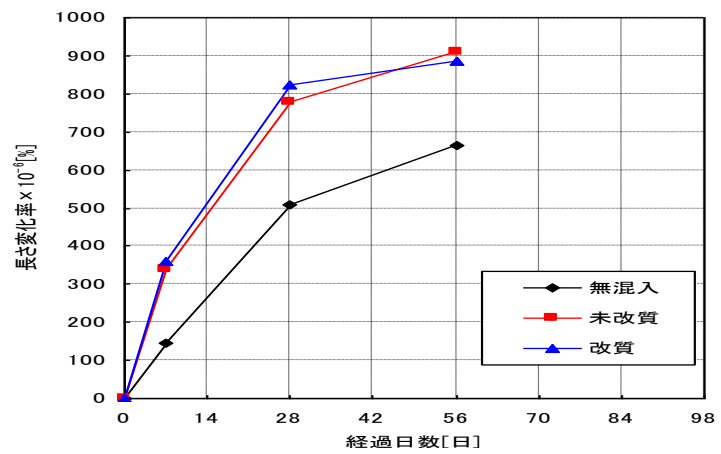
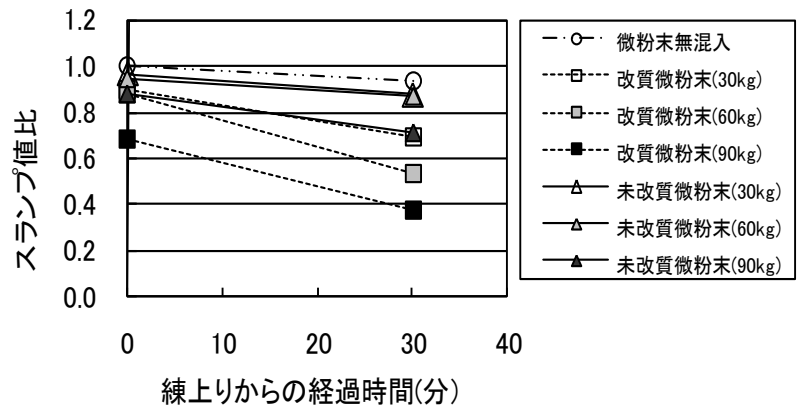
- 細粒分の表面改質, 粒度改善によって, コンクリートの性能向上をも果たせる調整済細粒分に転生させる.
- これにより耐久性向上, 単位セメント量削減, 資源循環といったトレードオフ関係になりそうなコンクリートの性能を同時に向上させる点で独創的であり先導的
- 実現すれば, 全国どこにでもある低コストな廃棄物なので, 市場化は容易

昨年度の成果：1年目+2年目の研究も前倒しで実施

1. 達成された良い結果：改質微粉末により強度の大幅改善，目標を一部達成



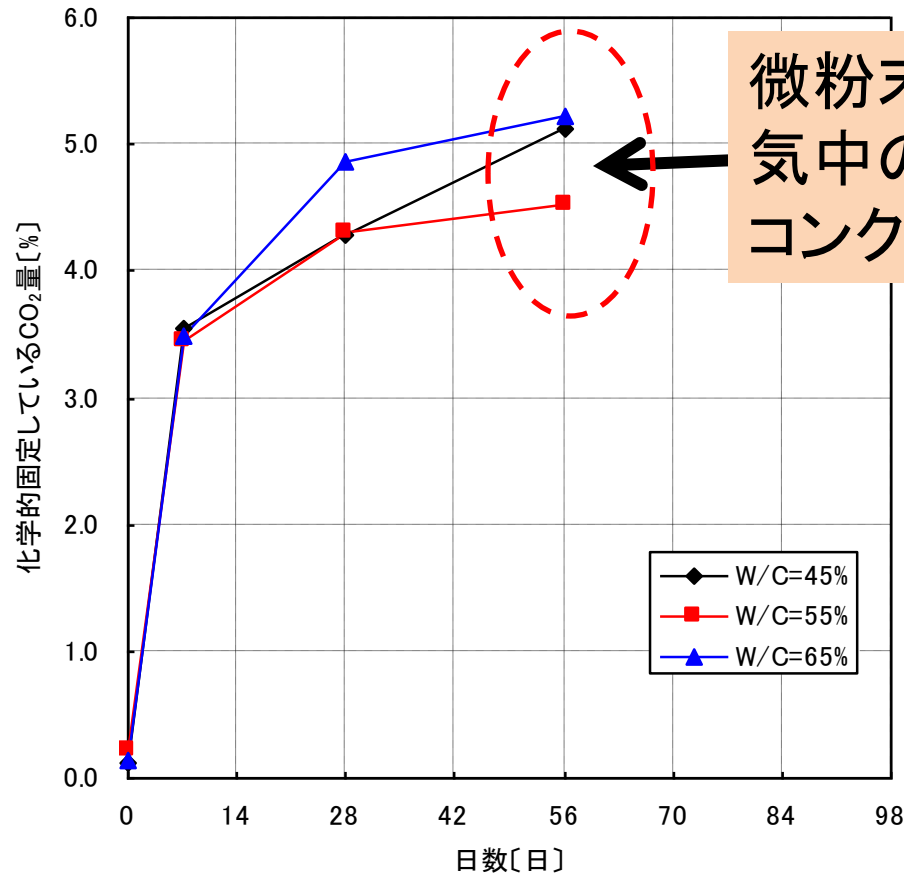
2. 検討すべき課題：スランプロスが大きい，収縮量が大きい



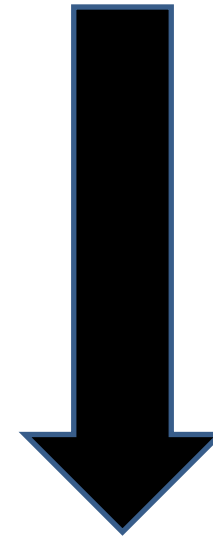
今年度の課題：改質方法によっては微粉末の吸水率があがるため，炭酸化処理の時間，PHなどによって表面状態を要精査

昨年度の成果：改質微粉末の高度利用

3. 発見されたよい成果：改質微粉末のCO₂吸収量が大きく、利用価値が高い



微粉末のCO₂吸着量は重量比5～6%
気中の吸着を促進した上で
コンクリートに利用すれば一石二鳥



微粉末の微視的な水分およびCO₂の吸着特性がわかれば
収縮も低減され、大気中のCO₂を吸収し、かつコンクリートの性状を改善させられる
WIN-WINの廃棄物由来材料ができあがる可能性がある。

研究計画・予算計画(変更なし)

| 技術開発項目 | H22年度 | H23年度 | H24年度 |
|---|---|--|-------|
| ①廃コンクリート細粒・廃石系細粒分の物性調整技術の開発 (野口, 北垣) | 廃コンクリートの再資源化に必要な基礎物性に関する調査 1.4 | 廃コンクリートの再資源化に必要な基礎物性に関するメカニズムの解明 1.4 | |
| ②廃コンクリート・廃石系細粒分の混和材化とそれを利用したコンクリートの性能評価 (堺, 日工, 三豊) | 細粒分の混和材化にともなう, 文献調査, 既往研究の再現 6.2 | 細粒分を改善を施し, これを利用したコンクリートの性能評価を実施, 混和材との代替可能性を検証 6.2 | |
| ③コンクリートセクターの包括的資源循環シナリオに基づく再生骨材・細粒分の組合せ利用技術の開発 (堺, 日工, 三豊) | <p>もともと年間500万円補助という少ない額当初より節約体制で研究を進めている上, すでに想定を超える持出しで研究を進めている. 微粉末の混和材化のために計画通りの研究が必要なことから予算は計画通り執行させていただきたい</p> | | |
| 直接技術開発経費 | 7.6 | 7.6 | 7.6 |
| 間接経費 | 2.4 | 2.4 | 2.4 |
| 合計 | 10 | 10 | 10 |
| (うち補助金の額) | 5 | 5 | 5 |

●類似研究で受けている他の補助金の有無:なし

(百万円)